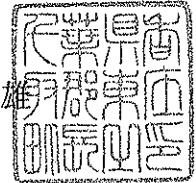




まち 第 18 号
平成 19 年 5 月 8 日

国土交通省道路局長 様

千葉県香取郡
東庄町長 岩田 利雄



道路整備の姿を示した中期的な計画の作成にあたって
意見の提出について（提出）

平成 19 年 4 月 2 日付け国道企第 114 号で提出依頼のありました標記のことについて、下記のとおり意見を提出します。

記

1. 地方道路整備の財源確保

道路は住民生活の地域経済・社会活動を支える基本的なインフラであり、最も基本的かつ優先的に整備されるべき地域社会資本であると考えられます。

地方分権の時代、活力ある地域経済を構築しそれに支えられた地域社会を実現するためには、地方の道路整備を早急且つ計画的に推進する必要があります。

地方部の道路は、都市部に比べて立ち遅れており、今後重点的に整備されるべきものと考えます。

2. 地方自治体の道路財源確保

地方自治体の財政は、財政計画規模の抑制に努めてもなお引き続き大幅な財源不足の状況にあり、地方財政の借入に係る償還負担が高水準で続くことに加えて、社会保障関係経費の自然増も見込まれるところであり、将来の財政運営が圧迫されることが強く懸念されています。

しかし、地方で生活し社会活動を営むものにとって、道路は生活に密着したものであり、安全な生活環境や活力ある地域経済を目指すためにも立ち遅れている道路整備の推進をする必要があります、そのためにも安定的な財源を確保しなければならない状況にあります。

地方の自治体を取り巻く環境は、少子・高齢化に加えて若者の都市への流

出等により安定した財政基盤の確保には課題が山積している中で、地域の社会生活・産業経済に寄与する道路整備に対する地域住民からの要望は一段と高まっています。

以上のことより、地方自治体の道路整備のための安定した財源確保の制度の充実を望みます。

3. 地方の産業都市を中心とした国県道路網の整備

今日までは、首都圏や県庁所在地を中心とした放射線状のルート・環状線ルートを優先的・重点的に整備されてきたと思われるが、今後は地方の都市圏にも目を向けた道路網（高速でない一般道路）の整備が必要と思われます。

それぞれの地域において、地方産業都市を中心に通勤、通学、買い物、食事など生活・経済圏が形成されており、その生活・経済圏の内でスムーズに行き来できる道路網の整備が求められています。

首都圏や県庁所在地から遠く農業を基幹産業としてきた地域には国県道の道路網整備については、立ち遅れている状況です。

本町地域で申し上げますと、千葉県東総地域は、本県の北東部に位置し農業の盛んな地域であります。利根川を挟み茨城県との県境になっており、茨城県鹿嶋市、神栖市を中心とした鹿島臨海工業地帯とは、大いに関係した地域であり日常の通勤、生活、産業の利便性が図られる幹線道路の整備や改良に地域住民の強い要望があります。

このことから、地方の産業都市を中心とした幹線道路網の整備を行い、通勤圏の拡大による就業の場の確保と若者の都市への流出防止、過疎化防止のため整備を切に願うものであります。

特に、県境の地域は県境を越えた道路整備については是非とも積極的に取り組んで頂きたいと考えます。

参 考 資 料

別紙「重点要望箇所図」は、千葉県東総地域の道路整備計画を記したものであるが、道路財源の不足からなかなか計画のとおり工事が順調に進んでいないのが現状であり、特に一般県道下総橋停車場東城線バイパスなどは、東総台地の脊髄ともなる東総台地地区広域営農団地農道からの接続となり鹿島臨海工業地帯への通勤・流通になくてはならない道路であり早急なバイパス完成が望まれる。

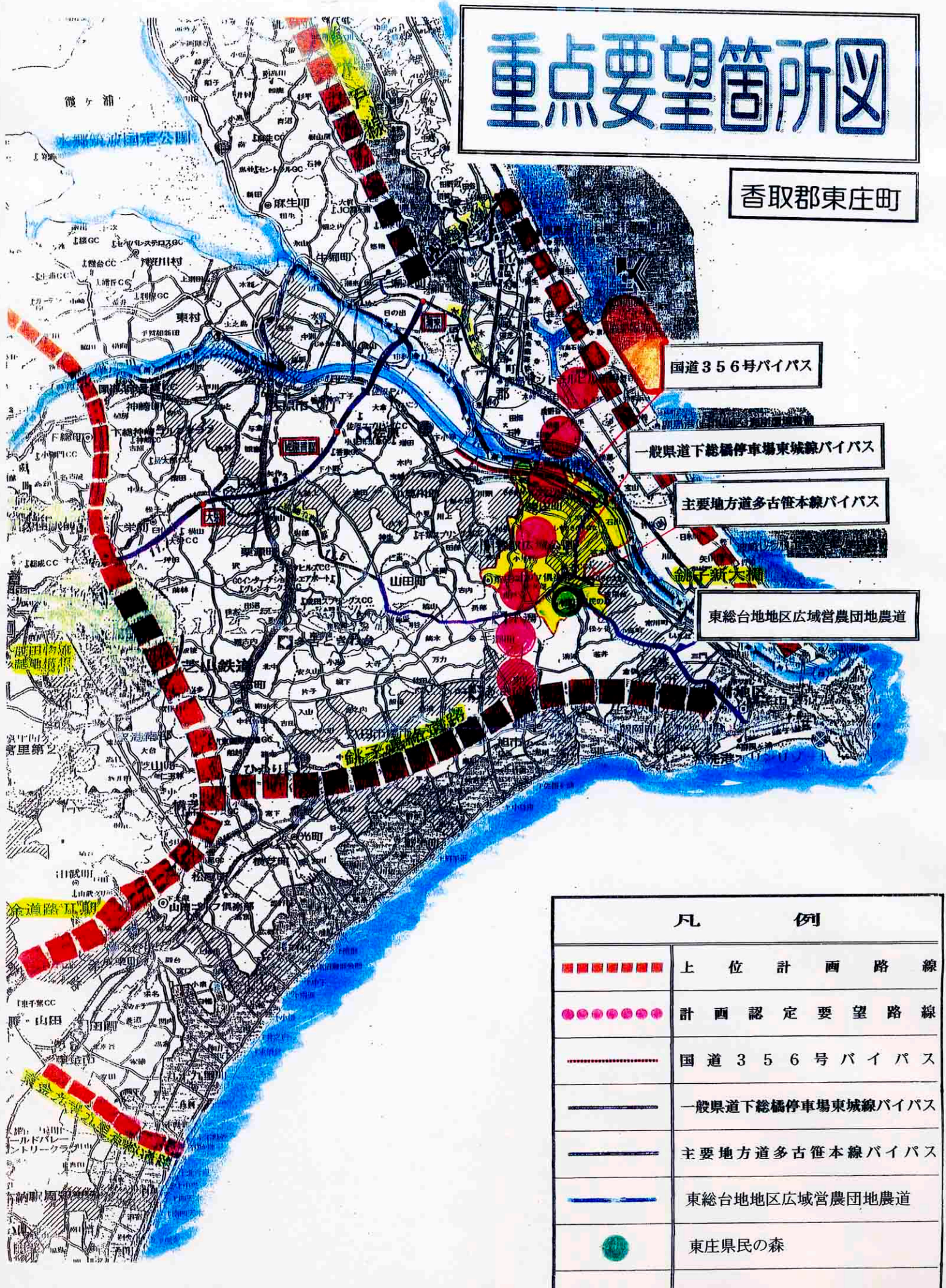
また、鹿島臨海工業地帯などへの通勤区域拡大のためにも、東総台地の南地域や九十九里浜地域からの幹線道路のアクセスが望まれている。

平成19年5月8日

東 庄 町

重点要望箇所図

香取郡東庄町






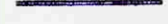



国道356号バイパス

一般県道下総橋停車場東城線バイパス

主要地方道多古笹本線バイパス

東総台地地区広域営農団地農道

凡 例

	上位計画路線
	計画認定要望路線
	国道356号バイパス
	一般県道下総橋停車場東城線バイパス
	主要地方道多古笹本線バイパス
	東総台地地区広域営農団地農道
	東庄県民の森